

「私と体操」

宮浦信義

私が体操競技に熱中し始めたのは鳴門高校の2年生の頃だと思う。当時は体操の器械器具が少なく、施設は不十分であった。そんなこともあって、よく徳島商業高校まで練習に通ったものだ。徳商では鈴江敏則先生にいろいろな面でご指導をいただき、同級の岸君にも大変お世話になった。私が将来指導者になれば施設を完備させたいという夢を抱いたのは、この時からかもしれない。

昭和40年、日本体育大学を卒業して板野高校の体育教員になり、就任2年目に器械体操部を創部した。その2年後には待望の男女の器具が揃った。そして、県大会で優勝し、全国大会にも出場するようになった。

昭和47年に母校である鳴門高校に転任。体操競技の競技力向上には低年齢層から練習を始める必要があると盛んに言われ始めた時期でもあった。当時、体操競技では東京品川の池田体操教室をはじめ、全国に様々な体操のクラブが出来はじめた。本県でも、牟岐体操クラブや上板アップル体操クラブが活動を始め、成果も上がってきた。

昭和49年に小学校3年生から6年生を対象に選手募集をして、鳴門市体操教室を開設した。開設にあたっては小体連の磯崎勝美先生や坂本廣次先生から多大なご協力を得た。同年、鳴門市体操協会が発足され、遠藤将弘氏が初代会長に就任された。

当時の体操教室の選手は約20名。体操競技に熱意を持った教室生は一生懸命練習に励んでくれた。練習は鳴門高校と撫養小学校の体育館を中心に行なわれたため器械器具をリヤカーで運びながらの大変な状況であった。練習場所の確保など他のクラブとの調整も必要であった。それでも球技と一緒に練習をすることになるので、時にはボールが飛んで来る危険な状況であった。このような状況を踏まえて、体操競技専用体育館が必要であるという話が出るようになった。

折りよく、品川の池田体操教室に合宿に行く話が持ち上がり、選手強化と施設の見学を兼ねて訪問することとなった。選手・保護者・指導者合わせて10名程で参加し、練習計画、練習内容、指導方法、施設設備などを見学した。とても勉強になったことを覚えている。

この合宿に参加したことがきっかけとなって、体育館設備の気運が高まってきた。遠藤将弘会長や保護者会々長鶴沢国之氏が中心となって、関係者一同は熱心にまた積極的に署名活動などを行い、鳴門市への働きかけに奔走した。その甲斐あって、長年の夢であった体操競技専用の体育館が昭和54年5月に完成した。体育館の設計は私が担当となり、器具も男女とも揃えることが出来た。そして、遂に完備した施設での練習が出来るようになった。この記念すべき年に全国中学校体操競技選手権大会において山田隆弘選手が中学チャンピオンに輝いた。そして同年、第1回鳴門カップ体操競技選手権大会が開催された。現在、16回大会を数えることになったが、その間、鳴門体操教室出身の山田隆弘選手・畠

田好章選手の両名が各種大会での活躍はもとよりオリンピックにも出場するという快挙を成し遂げてくれた。

今では幼児コース、健康コース、選手コース合わせて約 120 名の教室生が日々練習に励んでいる。これも関係各位の当初からの熱心なご支援とご理解の賜であると心より感謝している。

私自身も高校時代の夢が叶い、これからも一層頑張りたいと思っている。

(この文章は前会長である宮浦信義先生が平成 6 年 3 月に書かれたものです。鳴門体操協会の歴史の一端を垣間見ることが出来ます。)

抜粋

鈴江敏則 徳島県体操史 (昭和編) 徳島の体操「今・昔」(1995 年 5 月)